



東日本大震災の風化を防ぐプログラム2024「福島の声聞く」①

福島第一原子力発電所の今と 福島の人びとの思い

2011年3月11日の東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故で避難先から現在も戻れない人々があります。原発の廃炉作業は遅々として進まず困難を極めておりトラブルもたびたび発生しています。さらに、東京電力の不誠実な態度にも避難者は直面しています。東京に住む人たちは、日々新たな紛争・災害のニュースの中で、東日本大震災も福島第一原発事故も記憶が薄れつつあります。

そうした中で、福島第一原発の放射能汚染水を希釈して海に流す事業(ALPS処理)がはじまりました。

このプログラムでは、福島第一原発では今、何が起きているのか、ALPS処理は最善なのか、専門家の考えを聞きながら、福島第一原発事故から13年を経て、福島の人びとは、原発に対し、また東電に対して、どのように思っているのか、本来はどうあったらよいのか、東京に住む人々の在り方と併せ、フロアとともに考えます。

日時 **2024年6月8日(土)午後1時30分から3時45分**

定員 **150人 参加費500円**

対象 **一般、対面のみ(オンライン及び録画なし)**

場所 **東京YWCA会館カフマンホール**
(東京都千代田区神田駿河台1-8-11)

講演

菅波完(すげなみたもつ)さん

(高木仁三郎市民科学基金事務局長)7年ほど金融機関に勤務した後に、WWFジャパンで5年間在籍。諫早湾などの干潟保全活動にもボランティアとして参加してきた。2002年9月から高木仁三郎市民科学基金事務局。原子力市民委員会では、原発設計技術者や原発訴訟に関わる弁護士などをメンバーとする原子力技術・規制部会のコーディネータを担当している。

市村高志(いちむらたかし)さん

(TCF: Tomioka. Connection. Fellowship共同代表)東日本大震災及び原発事故で広域避難をした福島県双葉郡富岡町の避難当事者であり、発災当初より活動している。同じ経験をした富岡町の人々同士の繋がりや避難元である富岡町との繋がりづくりを目的に2022年にTCFを設立。富岡町の今や広域避難について、さまざまな所で発信を続けている。

原子力市民委員会(Citizens' Commission on Nuclear Energy: CCNE)は、福島第一原発事故を受けて、「脱原発社会をつくるための具体的な道筋を、倫理的な観点を盛り込みながら本気で考えること」を掲げて、2013年4月に設立された市民シンクタンク。政策集『原発ゼロ社会への道』を2014年、2017年、2022年に発刊。認定NPO法人「高木仁三郎市民科学基金」の特別事業として、市民からの寄付を財源としている。

主催 **公益財団法人東京YWCA 紛争・災害対応委員会**

協力 **原子力市民委員会**

★申し込みは、電話☎03-3293-5436 またはPeatixから。



Peatixはこちらから

YWCA(ワイ・ダブリュー・シー・エー/Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。1855年英国で始まり、今では日本を含む100以上の国・地域で活動しています。